

ほっと通信

令和6年2月号

生活の中の
仏教語

仏さまはいらっしゃるか ー親鸞のことばからー



ほっと通信編集委員 佐藤徳郎 (釈 徳法)

私は浄土真宗の僧侶です。浄土真宗の本尊は「阿弥陀如来」で、私たちが死後に往くとされる「極楽」は、この阿弥陀如来の仏国土（ぶっこくど：仏の国、清浄なる土地ということから浄土とも呼ばれる）です。浄土教（阿弥陀如来を信じ、念仏して死後に極楽浄土に生まれることを願う教え。浄土宗、浄土真宗、時宗など）では「南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ）」と念仏を唱えますが、これは、「南無+阿弥陀仏（仏=如来）」ということ、「南無」とは「おまかせしますとかお救いください」という意味です。簡単に言えば「南無阿弥陀仏」と唱えることで、誰でも死後、阿弥陀如来の仏国土である極楽浄土に生まれることができるということです。そのようなことを法話で話すと、よく「極楽浄土ってほんとにあるのですか。そこに阿弥陀様はいらっしゃるのですか」というようなことを聞かれます。たしかに、浄土真宗の法要でよく唱えられる『阿弥陀経』には極楽の様子が説かれていますし、阿弥陀如来の仏像や絵像を目にします。しかし、浄土真宗の開祖親鸞は、自らが著わした『唯信鈔文意（ゆいしんしょうもんい）』という書物の中で次のように述べています。

「法身（ほっしん）はいろもなし、かたちもましまさず。しかれば、こころもおよばれず、ことばもたえたり。この一如（いちによ）よりかたちをあらはして、方便法身（ほうべんほっしん）と申す御すがたをしめして・・・」

法身とは真理そのものとしての仏の本体。一如は真如ともいい、永遠不変の真理のことであり、如来とは真如より来たる者という意味です。方便法身とは、あらゆるものを救うために、具体的なかたちを現わしてくださった仏の姿を言います。

そこで上の言葉を現代語に訳すと、「仏さまは色もなく形もない。だから人の心の及ぶところではなく、言葉では言い表せない。永遠不変の真理より形を現して、仮のお姿を示したのだ」となります。

つまり、阿弥陀如来とは、真理そのものであり、人間の智慧が及ばないものですが、嘘も方便と言うように、人間にも分かるよう仮のお姿を現したものの。「南無阿弥陀仏」という言葉は、「この世界の永遠不変の真理におまかせ

します」という、仏さまへの呼びかけです。

仏さまが本当にいるのかいないのか、その問いには永遠に答えができません。それならば、仏さまは、どこか遠いところにいるのではない、私たちが仏さまに呼びかけ、仏さまのことを思ったとき、真理そのものである仏さまが私たちの心にはたらきかけてくれる。そのように考えてみてはどうでしょうか。

北海道小樽市 真宗木辺派潜龍寺衆徒
宮城県石巻市在住
(1047字)